



2023年4月10日放送

「第86回 日本皮膚科学会東部支部学術大会 ①

大会を終えて」

新潟大学大学院 皮膚科
教授 阿部 理一郎

はじめに

2022年8月27日・28日に、朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターにて第86回日本皮膚科学会東部支部学術大会を開催させていただきました

本大会は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の見通しがつかないため、当初からハイブリッド開催の予定としました。特に開催直前には第7波が猛威をふるい、現地での開催にも少なからず影響があることを心配しておりましたが、幸いなことに550名の現地参加者の方を含めまして約980名の方にご参加いただきました。

テーマとコラボレーション

本大会のテーマとしては、皮膚科学の最新知識を学ぶこと、および旧知の方と新潟で久々に会い親交を深めることの二つの意味を込めて“新潟でWhat's New?”としました。

学術大会として8つのシンポジウムや国際色豊かな教育講演に力を入れつつも、楽しそうな学術大会だな、と皆様に思っただき、新潟の魅力を発信するには…と思案しました。そこで、マンガで有名な新潟ですので、大変著名な漫画家の方にコラボレーションをお願いすることにしました。私も個人的には小さい頃によくテレビで見たりマンガを読んでいた大好きな漫画家の方です。と、はいうものの当初はまず無理だろうと思っていましたが新潟コンベンション協会を通じてご依頼したところ、なんとご快諾いただけました。そして皆様ご覧いただいたポスターやホームページ、抄録集などが出来上がった次第です。本大会への反響が大きかったのも、このコラボレーションによるところも大きく、この漫画家の先生には厚く御礼を申し上げます。

プログラム

様々な分野の最新の知見を深められるよう、シンポジウムを8個開催しました。薬疹、皮膚癌、接触皮膚炎、化粧品研究、毛髪疾患、クリニックでの診療、膠原病、リンパ腫について、各分野のエキスパートの先生方にオーガナイザーおよびご講演を賜りました。どのシンポジウムも大変素晴らしくとても勉強となる内容でしたが、参加者の皆様には日程的に、シンポジウムが並列の構成となってしまい、全てを聴講していただけなかったことが残念です。

また、日本だけでなくグローバルな観点からもお話をお聞きするため、本大会では6名の海外の先生にご講演をしていただきました。特に University of Maryland School of Medicine の Thomas Hornyak 先生と University of Queensland の Nikolas Haass 先生はビザを取得して現地にお越し下さり、Hornyak 先生には教育講演でパンデミック下におけるアメリカの皮膚科診療事情を、Haass 先生にはシンポジウムでメラノーマのご研究のお話をさせていただきました。久しぶりに海外の皮膚科医の先生とリアルに交流ができ、若い先生方も良い刺激を受けておりました。

本学会は特別講演を設けず、招待講演も一つだけにしました。その招待講演は社会学者の上野千鶴子先生に「皮膚科は女性向きの職業か？」というご演題名でご講演をしていただきました。他科と比べてもすでに女性医師数が半数を占める皮膚科に向けての問題提起をいただきました。私個人も女性の方のさらなる活躍が、今後の皮膚科の発展には必須なことと思っていますので、上野先生のご講演で少しでも皆様の意識に変化があったのなら、この講演を企画した甲斐があったと思います。

また学会オープニングのビデオ挨拶は、全国の先生方にご出演いただいたストーリー形式と少し遊び心のあるものにして、学会開始の景気づけにしました。無理なお願いにご快諾して頂いた先生方に感謝します。



教育講演をしてくださった海外講師の Hornyak先生とHaass先生



東部支部恒例、プレCPCの様子

開催における工夫とおもてなし

感染状況のため懇親会は中止させていただき、その代わりに現地参加者の方へ市内で利用できる食事券を配布いたしました。思い思いに市内のお店で飲食できたと参加者の方からも、また飲食店からも喜ばれました。もう一つ、現地参加者の方限定で漫画家とのコラボレーションしたコングレスバッグもお配りいたしました。デザインから教室員が携わり、使いやすく素敵なバッグとなり好評でした。今回の特別な試みとしては、会場内の託

児室にお子様を預けられた方は参加費を無料としました。お子様同伴でも勉強したい、現地で発表したいと思う方が増えることを期待しました。演題募集が始まるころからは学会公式 SNS として Instagram と Twitter を開始し、当日まで情報発信しました。担当の教室員をはじめ、教室のみんなが撮った新潟の写真もアップロードしました。会期当日のドリンク・お菓子コーナーにはご当地銘菓や面白ドリンクまで幅広く準備し、教室員手書きの完成度の高いポップまで作成してみました。しかし何よりも、「すべての演題に質問する！」ことを目標に、教室員が学会に参加したことで皆成長させてもらいましたし、ご参加いただいた他大学の先生方からもたくさんお褒めの言葉を頂戴しました。教室員みんなで学会を盛り上げられたのではないかと思います。



教室員手作りのポップが光る無料ドリンクコーナー

おわりに

コロナ禍で大変な状況であることに加え、これまでにない取り組みが多かったと思われませんが、本大会が無事に開催できたのも日本皮膚科学会大会運営部の皆様、とくに山田紀子様のご尽力のおかげです。また、数々のリクエストに快くお力添えをしてくださった新潟観光コンベンション協会の皆様にも厚く御礼を申し上げます。

個人的にはまったくの素人で未経験のことばかりでしたが、学会事務局長の濱菜摘講師の大変な頑張りりと、教室の先生方に強力に助けられながら何とか無事開催できたことに安堵しております。大変ではありましたが、教室員一同良い経験となりました。この場をお借りして、ご参加ご尽力をいただきました皆様に心より感謝申し上げます。



「マルホ皮膚科セミナー」

https://www.radionikkei.jp/maraho_hifuka/